

教育センター学びの丘研修員における学びについて

紀の川市立池田小学校

教諭 西 中 善 彦

和歌山県教育センター学びの丘研修員として過ごした1年で学んできたことと今後の展望について述べる。

修養を積み重ねることで、「令和の日本型学校教育」において育成が求められる資質・能力や目指すべき教育の在り方など、小学校だけでなく全ての校種・教科等に関する知見を深めることができた。また、様々な研修を通して、ミドルリーダーとして、組織の同僚性や協働性を高める取組や自身が果たすべき役割について明確なビジョンをもつことができた。1年間の修養を通して、今後の実践に生かすことができる教科指導や生徒指導といった児童・生徒との直接的な関わりだけでなく、教師同士の関わりについても新たな見方や考え方を得ることができた。

これらの修養での学びは研究にも生かされることとなった。当初は、総合的な学習の時間における自身の指導に課題意識をもっていた。しかし、学びを重ねていくことで、児童の探究的な学びの姿の実現には、教師1人の力量を高めていくこと以上に、組織的かつ協働的に取り組むことが重要であることを見いだすことができた。

今後は、総合的な学習の時間を軸として、各教科等横断的な視点で児童の学びを捉えながら、児童一人一人の成長をチームとして支える組織の中核を担う一員として役割を果たしていきたい。